



- 長崎平和宣言
 - ヒバクシャ悲願の核兵器禁止条約を採択
 - 平和首長会議8年ぶりに長崎で開催
 - 山端庸介生誕100年記念写真展
 - 市民のつどい、長崎国際平和映画フォーラムのお知らせ
 - 会員の広場
- TOPICS! (北朝鮮の核実験に抗議 ほか)

山端庸介生誕100年記念写真展 (長崎市立図書館多目的ホール)

長崎平和宣言

「ノーモア ヒバクシャ」

この言葉は、未来に向けて、世界中の誰も、永久に、核兵器による惨禍を体験することがないように、という被爆者の心からの願いを表したものです。その願いが、この夏、世界の多くの国々を動かし、一つの条約を生み出しました。

核兵器を、使うことはもちろん、持つことも、配備することも禁止した「核兵器禁止条約」が、国連加盟国の6割を超える122か国の賛成で採択されたのです。それは、被爆者が長年積み重ねてきた努力がようやく形になった瞬間でした。

私たちは「ヒバクシャ」の苦しみや努力にも言及したこの条約を「ヒロシマ・ナガサキ条約」と呼びたいと思います。そして、核兵器禁止条約を推進する国々や国連、NGOなどの、人道に反するものを世界からなくそうとする強い意志と勇気ある行動に深く感謝します。

しかし、これはゴールではありません。今も世界には、15,000発近くの核兵器があります。核兵器を巡る国際情勢は緊張感を増しており、遠くない未来に核兵器が使われるのではないかと、強い不安が広がっています。しかも、核兵器を持つ国々は、この条約に反対しており、私たちが目指す「核兵器のない世界」にたどり着く道筋はまだ見えていません。ようやく生まれたこの条約をいかに活かし、歩みを進めることができるかが、今、人類に問われています。

核兵器を持つ国々と核の傘の下にいる国々に訴えます。安全保障上、核兵器が必要だと言い続ける限り、核の脅威はなくなりません。核兵器によって国を守ろうとする政策を見直してください。核不拡散条約（NPT）は、すべての加盟国に核軍縮の義務を課しているはずで、その義務を果たしてください。世界が勇気ある決断を待っています。

日本政府に訴えます。

核兵器のない世界を目指してリーダーシップをとる、核兵器を持つ国々と持たない国々の橋渡し役を務めると明言しているにも関わらず、核兵器禁止条約の交渉会議にさえ参加しない姿勢を、被爆地は到底理解できません。唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約への一日も早い参加を目指し、核の傘に依存する政策の見直しを進めてください。日本の参加を国際社会

私たちは決して忘れません。1945年8月9日午前11時2分、今、私たちがいるこの丘の上空で原子爆弾がさく裂し、15万人もの人々が死傷した事実を。

あの日、原爆の凄まじい熱線と爆風によって、長崎の街は一面の焼野原となりました。皮ふが垂れ下がりながらも、家族を探し、さ迷い歩く人々。黒焦げの子どもの傍らで、茫然と立ちすくむ母親。街のあちこちに地獄のような光景がありました。十分な治療も受けられずに、多くの人々が死んでいきました。そして72年経った今でも、放射線の障害が被爆者の体をむしばみ続けています。原爆は、いつも側にいた大切な家族や友だちの命を無差別に奪い去っただけでなく、生き残った人たちのその後の人生をも無惨に狂わせたのです。

世界各国のリーダーの皆さん。被爆地を訪れてください。

遠い原子雲の上からの視点ではなく、原子雲の下で何が起こったのか、原爆が人間の尊厳をどれほど残酷に踏みじったのか、あなたの目を見て、耳で聴いて、心で感じてみてください。もし自分の家族がそこにいたら、と考えてみてください。

人はあまりにもつらく苦しい体験をしたとき、その記憶を封印し、語ろうとはしません。語るためには思い出さなければならぬからです。それでも被爆者が、心と体の痛みを耐えながら体験を語ってくれるのは、人類の一員として、私たちの未来を守るために、懸命に伝えようと決意しているからです。

世界中のすべての人に呼びかけます。最も怖いのは無関心なこと、そして忘れていくことです。戦争体験



被爆72周年



は待っています。
また、二度と戦争をしてはならないと固く決意した日本国憲法の平和の理念と非核三原則の厳守を世界に発信し、核兵器のない世界に向けて前進する具体的方策の一つとして、今こそ「北東アジア非核兵器地帯」構想の検討を求めます。

者や被爆者からの平和のバトンを途切れさせることなく未来へつないでいきましよう。
今、長崎では平和首長会議の総会が開かれています。世界の7,400の都市が参加するこのネットワークには、戦争や内戦などつらい記憶を持つまちの代表も大勢参加しています。被爆者が私たちに示してくれたように、小さなまちの平和を願う思いも、力を合わせれば、そしてあきらめなければ、世界を動かす力になることを、ここ長崎から、平和首長会議の仲間たちとともに世界に発信します。そして、被爆者が声をからして訴え続けてきた「長崎を最後の被爆地に」という言葉が、人類共通の願いであり、意志であることを示します。

被爆者の平均年齢は81歳を超えました。「被爆者がいる時代」の終わりが近づいています。日本政府には、被爆者のさらなる援護の充実と、被爆体験者の救済を求めます。

福島原発事故から6年が経ちました。長崎は放射能の脅威を経験したまちとして、福島の被災者に寄り添い、応援します。

原子爆弾で亡くなられた方々に心から追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は、核兵器のない世界を願う世界の人々と連携して、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2017年(平成29年) 8月9日
長崎市長 田上富久

- ① 平和祈念像
- ② 平和の灯 (平和公園・平和の泉)
- ③ 追悼平和祈念館交流ラウンジ
折り鶴コーナー
- ④ キッズゲルニカ (下の川)
- ⑤ 平和祈念式典「平和への誓い」のため、
壇上へ向かう深堀好敏氏
- ⑥ 追悼平和祈念館追悼空間
- ⑦ 8月9日原爆資料館でガイドを行う
平和案内人





ヒバクシャ悲願の 核兵器禁止 条約を採択

核兵器の全面禁止と根絶を目的とした核兵器禁止条約が7月7日、国連本部で122か国・地域の賛成多数で採択されました。

非人道兵器である生物兵器、化学兵器、地雷、クラスター爆弾は国際的に使用を禁止する条約があるのに、究極の非人道性を有する核兵器は、これを違法とする国際条約はありませんでした。このため2007年4月、コスタリカ、マレーシア両政府が国連に正式に共同提案、今年3月、さらに6月から7月にかけて制定交渉を進めていました。



提供・ICAN

長崎、広島の被爆者代表らは、国連本部で議長国のコスタリカ大使にヒバクシャ国際署名運動で集めた約300万筆の署名を手渡し、条約採択へ向けてヒバクシャの悲願を伝えました。その結果、核兵器禁止条約は「被爆者の受け入れ難い苦痛」に言及、核兵器の開発、製造、備蓄、移譲、使用及び威嚇としての使用も禁止する画期的な内容となりました。

この条約は9月20日から署名手続きが始まり、批准国数が50か国に達した後、90日を経て発効します。しかし、制定交渉にすべての核保有国が不参加、アメリカの核の傘の下にある日本、韓国、カナダ、オーストラリア、NATO加盟国のドイツなども参加しませんでした。

田上長崎市長は今夏の平和宣言で「日本政府が交渉会議にさえ参加しない姿勢を、被爆地は到底理解できません」と厳しく批判、松井広島市長は「条約の締結促進を目指して核保有国と非保有国との橋渡しに本気で取り組んでいただきたい」と政府に注文を付けました。今後どのような形でこの条約が発効するか、核保有国をはじめとする不参加国が「核兵器なき世界」へのように取り進むか、被爆地ナガサキは熱いまなざしで見えています。

広報委員長・本田貞勝



提供・ICAN

被爆者の声を世界に！

核兵器禁止条約交渉会議のホワイト議長（コスタリカ在ジュネーブ国際機関政府代表部大使）が、4月に国際赤十字・赤新月運動長崎会議に参加するため長崎を訪れ、当協会の継承部会長である池田道明さんの被爆体験講話を聴講しました。

その後のインタビューで、ホワイト議長は「国連での会議でも、条約の交渉に関わる政府代表が被爆者の声に耳を傾けることは、会議を動かす強い原動力になっている」と話しています。



長崎原爆資料館ホール

核兵器のな

被爆72年、世界は少しずつ

平和首長会議 総会 8年ぶりに 長崎で開催



会議の様子（長崎大学中部講堂）

8月7日から10日の4日間、第9回平和首長会議総会が長崎市で8年ぶりに開催され、35か国178都市の代表者、各国政府・NGO関係者等合計314人が参加されました。

今回は、「『核兵器のない世界』の実現を目指して—2020年に向けて、今、私たちができること—」をテーマに核兵器廃絶に向けた都市や市民社会の役割などが熱心に議論されました。



若者とのグループワーク



松尾幸子さんの被爆体験講話



フィナーレ



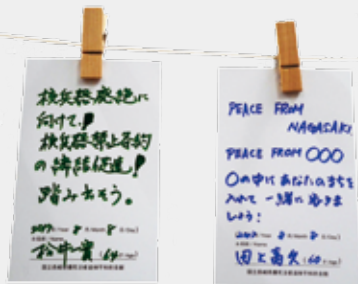
国際連合事務次長
中満泉さん

初めに国際連合事務次長中満泉さんによる基調講演が行われ、これからの軍縮の課題について、「都市や市民社会の一人ひとりが声をあげることで核兵器のない世界の実現に近づく」と述べられました。

また、今後3年間の活動計画である「平和首長会議行動計画」では、核兵器廃絶の実現に加え、紛争や難民などの地域課題への取り組み、次世代へ被爆体験や戦争体験などを継承する平和教育の実施などが決定されました。

総会の締めくくりとして、1日も早い核兵器廃絶の実現に向けて全力で取り組んでいくことを誓う「ナガサキアピール」と、核兵器保有国を含む全ての国に核兵器禁止条約への加盟を要請する「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」が全会一致で採択され、世界に向けて「長崎を最後の被爆地に」と願うメッセージが発信されました。

さらに今回新たな試みとして行われた、長崎や広島、京都、東京の学生・留学生と世界6都市の首長らとの「各都市で実現したい平和活動」についてのグループワークでは、今後の若者の役割を考える貴重な場となりました。



HIROSHIMA

NAGASAKI

平和首長会議とは？

1982（昭和57）年6月24日、ニューヨークの国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、荒木武・広島市長（当時）が、世界の都市が国境を超えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り開こうと「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱し、広島・長崎両市長から世界各国の市長宛てにこの計画への賛同を求めました。平和首長会議は、この趣旨に賛同する都市（自治体）で構成された機構で、1991年に国連経済社会理事会のNGOに登録されています。





山端庸介 生誕 100 年記念写真展 「昭和 20 年 8 月 10 日・長崎」開催

8 月 2 日から 7 日まで長崎市立図書館において、被爆翌日の写真を撮ったカメラマンで故・山端庸介氏の生誕 100 年を記念した原爆写真展が開催されました。

また、期間中の 8 月 6 日はちょうど山端庸介氏の生誕 100 年の日であり、

この写真展は写真資料調査部会が以前から希望していたものであり、長崎市の主催で実現しました。写真資料調査部会は写真の選定や解説の作成といった準備作業から、来場者への対応、トークイベントの実施まで全面的に協力しました。

写真は生誕 100 年を記念した原爆写真展が開催されました。

写真展には 6 日間でのべ 2124 人、トークイベントには予定数を超える 132 人の来場者があり、山端写真に対する市民の関心の高さを感じました。被爆翌日の実相を伝える写真は、目をおおいたくなるようなものも多くありますが、写真を見て自身や身内の体験を思い起こすなど、来場者の方々からは様々な感想をいただきました。夏休み期間中ということでもさんの来場者も多く、真剣に写真と向き合い、しっかりとコメントを残していったのも印象的でした。

山端庸介氏のご長男である山端祥吾氏が来崎され、深堀部会長とのトークイベントが実現しました。祥吾氏は山端写真の持つ力について技術的根拠や哲学的視点を交えながら解説して下さり、写真への理解を深める上で大変貴重な時間となりました。

今回は深堀部会長にとつて一層体調に配慮しながらの写真展開催でしたが、おかげさまで無事に終了することができました。写真資料調査部会では今回の写真展で得た情報や課題をもとに、もっと広く被爆の実相を伝えていけるよう、今後も検証作業を進めていきたいと考えています。

写真資料調査部会員

草野優介

Q. 深堀部会長が山端庸介さんの写真展にこだわった理由とは？

A. 4 千枚近くある原爆写真の中で、山端庸介さんの写真が他と大きく異なっているのは、原爆投下翌日 8 月 10 日の長崎で人物を写していることです。他の写真は、街や建物の様子を中心に、8 月下旬以降に撮影されているもので、この時間的な差は、どれだけ原爆の実相に迫ることができるのかの大きな差です。被爆直後の人間がどのような状況だったかを示すことができるのは、山端さんの写真です。

これまで何度も写真展を行ってきましたが、山端さんの生誕 100 年に合わせて、ここでもう一度原点に戻って、「これが原爆です」

という写真展を行いたかったんです。

写真資料調査部会
深堀 好敏部会長

来場者の声



● 言葉をなくす。どんな話を聞くよりも、原爆の恐ろしさが体の中にじわじわと伝わってきました。怖くて目をそむけたくりましたが、今を生きる人間が後世に語り伝え続けなければいけないと強く思いました。(50 代)

- 私が心に残ったことは、幼い子どもを守るために、傷つきながらも懸命に生きようとしたのだろうと思える大人の写真がたくさんあったことです。(10 代)
- 山端さんの写真からは原爆がいかに悲惨で、この世界に不必要かがはっきり分かる。全国各地で展示会をしてほしい。(50 代)
- 写真は真実を映すというが、これが現実であったのかと思うと胸が痛む。(20 代)
- 静岡から来ました。今までこういった写真は見たことがなく、正直こわかったです。だけど知る事は本当に大切なことだと思いました。後世に核の恐ろしさを残してくれた山端さんの思いを受け継いでいきたいです。(10 代)
- 世界中の人々にこの写真展を見てほしいです。核兵器がこの世界から無くなる事をつよ願います。(30 代)





長崎国際平和映画フォーラム 2017

- 日時 12月9日(土)～10日(日)
- 場所 長崎原爆資料館ホール
追悼平和祈念館交流ラウンジ

今年で8回目を迎える映画フォーラムは、映画のほか、無名塾と永遠の会の朗読劇や高校生による朗読、被爆者を撮り続けているポーレ・サヴィアーノ氏の写真展も行います。また、今回初めて両日にわたり、サヴィアーノ氏によるフォトワークショップも行います。

アニメの上映やメッセージツリーコーナーなど親子で楽しめるプログラムも充実しています。是非お越しください。

9日 10:50～17:40

- ・ 永遠の会朗読「9日を忘れない」
- ・ ポーレ・サヴィアーノ写真展「FROM ABOVE」
- ・ ポーレ・サヴィアーノ フォトワークショップ
- ・ 朗読劇「明日」(無名塾+永遠の会)
- ・ 映画「TOMORROW明日」:1988年(出演 桃井かおり・南果歩)
- ・ 映画「若い人」:1962年(出演 石原裕次郎・吉永小百合)

10日 10:00～17:20

- ・ ポーレ・サヴィアーノ フォトワークショップ
- ・ 映画「独裁者」:1940年(出演 チャールズ・チャップリン)
- ・ 高校生朗読「ぼくらが伝えたいあの日」
- ・ 英語字幕版ドキュメンタリー番組上映
- ・ アニメ映画(未定)



メッセージツリー

▼ポーレ・サヴィアーノ氏



お問合せ 追悼平和祈念館 ☎095-814-0055
<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

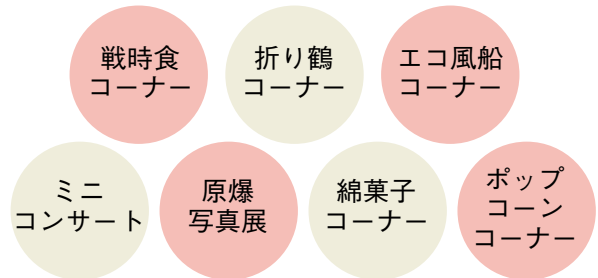
国連軍縮週間関連イベント 市民のつどい

- 日時 10月28日(土)10:00～13:00
- 場所 長崎原爆資料館 階段下広場



当協会では、10月24日～30日の国連軍縮週間中に開催される市民大行進に合わせて毎年「市民のつどい」を開催しています。

今年も、子どもから大人まで楽しめるイベントを行います。戦時食の体験や原爆写真展、また平和のメッセージを記入できるエコ風船コーナーなどをとおして、改めて平和の大切さを感じていただければと思います。



お問合せ 長崎平和推進協会 ☎095-844-9922
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

No.2



お便りをお寄せください!

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

田上市長の
起き上がり
小法師



井原 東洋一

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
(公財)長崎平和推進協会「会員の広場」係



Peace Wing Nagasaki 会員の広場

「起きあがり小法師」から元気を
「起きあがり小法師」は、福島県会津地方に古くから伝わる郷土玩具の一つで、倒してもすぐ起きあがり「七転び八起き」の縁起物として、赤ちゃんのオモチャに広く普及されてきた。

今、世界平和と福島復興支援のため、ファッションデザイナー高田賢三さんの提唱により、国際的に「起きあがり小法師プロジェクト」(渡辺実代表・パリ在住)が事業展開され、本年8月には、広島市で多彩なアート展が開催された。田上長崎市長と松井広島市長の「自画像起きあがり小法師」が並んで展示され、評判を呼んだ。

来年、長崎の平和旬間に開催されることをひそかに期待している。

北朝鮮の核実験に抗議

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は、国際世論の再三にわたる警告にもかかわらず、9月3日に同国北東部で6回目の核実験を強行しました。

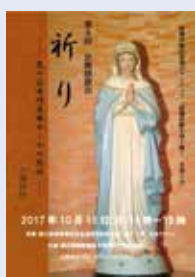
核兵器による惨禍を経験し、長年に渡り核兵器廃絶を訴えてきている当協会では、この暴挙へ厳重に抗議をするとともに核兵器開発の即刻中止を要求する趣旨の抗議文を、同国の金正恩（キムジョンウン）国務委員会委員長及び慈成男（チャソンナム）国連代表部大使あてに送付しました。

当協会は、これまでも核兵器の維持や開発に繋がる各種実験に対し、理事長名で抗議の意思を明らかにしています。
※当協会のホームページに抗議文を掲載しています。

被爆体験を語り継ぐ 永遠の会 第8回定期朗読会

祈り - 恵の丘長崎原爆ホームの記憶 -

入場無料



被爆の傷を心身に負い、原爆ホームで生活する方々が昭和57年から綴り始めた被爆体験記を朗読します。

日時：10月15日（日）

14:00～15:00

場所：追悼平和祈念館地下2階 交流ラウンジ

【問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055

原爆資料館ミュージアムショップ 新商品のご案内

長崎に届けられた千羽鶴で作られた商品が増えました！



・おりがみ(大)300円、(小)200円
・レターセット 450円



・トートバッグ 800円

【問合せ】書籍販売コーナー ☎ 095-842-0580

追悼平和祈念館が視覚障害者の被爆体験記点字本を作製



追悼平和祈念館は、被爆者で視覚障害がある佐々木浜子さん（91歳）から被爆体験を聞き取り、同じ障害を持つ方にも佐々木さんの体験を知ってもらおうと、点字本を作成しました。同館は被爆体験の点字本を以前から所蔵していましたが、視覚障害者の体験記を点字本にしたのは今回が初めてです。

この点字本は長崎市、長崎原爆資料館、長崎市立図書館、長崎県立盲学校、日本点字図書館（東京）に寄贈されました。祈念館内では点字と文字で記した体験記を閲覧することができます。

世界の核弾頭の数（2017年6月1日現在）

ロシア	米国	フランス	中国	英国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~7,000	~6,800	300	270	215	80	~140	100~120	<20	~14,900

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1088人
- ◎賛助会員 144人
- ◎学生会員 10人

（平成29年9月19日現在）

賛助会員（団体・法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎木下 セツ (敬称略) 二万円
- ◎井手 淑子 一万円
- ◎井手 三彦 一万円
- ◎匿名七人 三万四千元

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。
今年度まだ会費を納めていただけていない方は、何とぞ趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。
お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。
詳しくは当協会ホームページをご覧ください。事務局までご連絡ください。

本紙は再生紙を使用しています。

平成29年9月30日発行
印刷 株式会社 藤木博英社



(公財)長崎平和推進協会

〒852-8117 長崎市平野町7-8

☎095-844-9922

☎095-844-9961